

2021年8月16日(月)

茨城県・「教員セミナー」

「新学習指導要領の金融教育」

神奈川大学 梶ヶ谷 穰

## [1] 「金融教育」とは……

金融教育は、お金や金融の様々な働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育である。

『金融教育プログラム(全面改訂版)』 金融広報中央委員会より

## [2]「金融教育」のポイントを『学習指導要領・(同解説)』で把握する！

- (1) 「新(現)学習指導要領」の告示・実施に関して、その経緯や背景を把握する。
  - ①公職選挙法の改正による、18歳選挙権の実現
  - ②成年年齢を18歳へ引き下げる民法の改正
- (2) 「新(現)・学習指導要領のポイント・・・「社会に開かれた教育課程」、「育成を目指す資質・能力の明確化」→「生きる力」の具体化、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業の改善(「アクティブ・ラーニング」の視点による授業改善)、「カリキュラム・マネジメント」の推進(教科等の横断的学習の推進)等。
- (3) 授業実施の際に留意したいこと。→①校種間での学習項目・内容の把握と連携の重要性(例えば、中学校と高等学校の「校種間連携」の強化)、②教科(科目間)での学習内容の把握と連携の重要性(例えば、「社会科」・「公民科」と「家庭科」において)、③各種組織・機関作成の参考資料等の把握と活用、そして連携の強化(例えば、金融広報中央委員会や日本証券業協会、日本FP協会などとの)。

### [3] 中学校・社会科の「金融教育」のポイント

(1) 今回の『中学校学習指導要領・解説(社会編)』では、前回の学習指導要領の内容をより踏み込んで、以下のような学習内容が示されている。

①対立と合意、効率と公正、そして経済の基本的な見方・考え方である**分業**や**交換(媒介は「貨幣」)**、さらに**希少性**、**選択**や**トレード・オフ**が登場。

②「財やサービスの取引は「貨幣」を通して行われていることを理解する・・・また近年では**ICT**の発達などによって、**フィンテック**と呼ばれる**IoT** (Internet of Things)、**ビッグデータ**、**人工知能**といった技術を使った「**革新的な金融サービス**」を提供する動きが多く見られ、様々な支払い方法が用いられるようになってきていることを理解できるようにすることも必要である」と・・・これを受けて、教科書等では前述の学習項目の他、**スマホ決済**、**ブロックチェーン**や**仮想通貨(暗号資産)**についての内容が考えられる。

③経済活動や起業などを支える金融などの働きにおいては「経済活動」や「**起業**」などを支える金融などの働きについて扱う。→銀行預金や株式・社債の購入、さらに「**社会貢献**」につながる「**起業**」を支援する「**クラウドファンディング**」についても(上場企業への投資と、クラウドファンディングへの資金提供のリスクの違いなども扱うか)。

④「**企業会計**」の意味を考察する学習が示された、……**企業会計**について、具体的にどのような方法(例えば教材)で教えたらいいか。また「**財務諸表**」の種類、株式会社の仕組みや、**公認会計士**の役割などについても?……さらにまた「**企業会計**」に関連して、「**ステークホルダー**」や「**ガバナンス**」、「**パーソナル・ファイナンス**」についても扱うことも。いずれにしても学習内容が難しく、指導の工夫が必要である!

(2) →なお高等学校の新科目「**公共**」では、……経済に関わる事項の指導に際して、様々な金融商品を活用した資産運用にともなうリスクとリターンなどについて…理解できるようにすることも大切である」と。

## [4] 中学校・「技術・家庭科(家庭分野)」の「金融教育」のポイント

(1) 従前『学習指導要領』の、4項目……

A・家族・家庭とこどもの成長

B・食生活と自立

C・衣生活・住生活と自立

D・身近な消費生活と環境

(2) 新(現行)『学習指導要領』では、3項目に……

A・家族・家庭生活

B・衣食住の生活、

C・消費生活・環境……に、変更された。

→そして(C)の「消費生活・環境」の(1)では、金銭の管理が追加された。

またその(3)生活の課題と実践も追加された。

※キャッシュレス化の進展→多様化した購入方法・支払い方法→収支バランスを図る→計画的な金銭管理の必要性が記述されている！！

## [5] 高校・「家庭科」の「金融教育」のポイント(総論)

- ・成年年齢の引き下げ等を踏まえて、「家庭基礎」・「家庭総合」の両科目は、A～Dの4つの内容区分になった。
- ・特に内容「C」では、「持続可能な消費生活・環境」、その(1)で、生活における「経済」の計画、リスク管理等も学習するように再構成されている。

- (1) 「消費・経済」の領域で➡株式、債券、投資信託という「直接金融」の金融商品について学ぶこと。
- (2) 家庭を安定的・持続的なものとするため、生活経済の知識を持つことが重要。  
→家計管理・・・「運用」ということに焦点をあて、これまでの収支バランス、家計構造の理解をもとに、さらに預貯金を主とした家計管理に加え、直接金融(株式・債券や投資信託などの金融商品)についての各々のメリット・デメリットを学び、そして「資産形成」を学ばせる！

- (3) ポイントは・・・①収支バランス、②リスク管理、③生涯を見通した経済計画・生涯収支、**ライフプランニング**やファイナンシャル・プランニング、④資産形成・金融商品→預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴(メリット・デメリット)、資産形成にふれる。・・・NISA、IDeCoなどか。  
⑤ライフステージごとの課題や **社会保障制度**なども。
- (4) 家庭科で、「**金融教育**」・「**投資教育**」を！
- (5) 成年年齢の引き下げ→生涯を見通し・生活者の視点から考察・把握→**家計管理**の重要性→「各種リスク」への対応を学習する。
- (6) 「家庭」を将来にわたって安定的で持続可能な基本的な集団としていくためには、基本的な経済の知識が必要である。→「家計管理」と「資産形成」の知識が求められる。⇔各場面での「リスク管理」の知識も必要。
- (7) 電子マネーや決済機能などの「近代的な金融教育」も学習する。

## [6] 高校・家庭科「家庭基礎」の「金融教育」のポイント

- (1) 「家計管理」・・・、将来を見通して、事故や病気、失業、災害などの不可避的なリスクを踏まえ、さらに年金生活へのリスクに備えた経済的準備としての資金計画を具体的な事例を通して考察・理解する。
- (2) 家計管理等について学ぶ際には、「民間保険」や自助、共助、公助の重要性を理解できるよう指導を工夫する。→そもそも「保険」とは何か(その理念・機能)?
- (3) 株式・・・投資信託等の金融商品(特に直接金融)の基本的な特徴(メリット・デメリット)、また資産形成にも触れる。
- (4) 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージ、そして社会保障制度の内容と関連づけて考察する。
  - ※「民間保険」の学習の前提として、そもそも「保険」とは何か、その基本的な理念(役割)を学習させたい。
  - ※授業で活用する具体的な教材案としては、「給与明細(書・票)」や「確定申告書」などが考えられる。

## [7] 高校・家庭科「家庭総合」の「金融教育」のポイント

—— 「持続可能な消費生活・環境」で、「金融教育」の知識・技能を身に付ける。——

- (1) 「家計の構造」について理解するとともに、生活における経済と社会との関わりについても理解する。→金融商品の「損・得」の観点だけではなく、その拠出(投資)したお金が、私に将来の生活に、そして地域・社会に還元されること等を把握させたい。
- (2) 生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深め情報の収集・整理が適切に出来るようにすること。
- (3) 生涯を見通した経済計画・・・**老後の備え**の他にも、事故や病気、失業などのリスクへの対応策も必要であることを理解し、預貯金、**民間保険**、株式、債券、**投資信託**等の基本的な金融商品の特徴(メリット、デメリット)を把握し、「**資産形成**」の視点から考察・把握することも。

※「家庭総合」では、リスクの管理(リスク・ヘッジ)を、社会的・マクロ的に、そしてまた「資産形成」とともに把握・考察させることが重要であろう。

## 〔8〕 高校・公民科「公共」の「金融教育」のポイント

公民科の新科目「公共」は、「A 公共の扉」、「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」、「C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち」の3つの大項目から構成されている。このうち、「B」の「ア」の「(ウ)」に示された「知識及び技能」が、直接「金融経済」に関わる学習内容である。

(1) 『「新」学習指導要領』(p. 81) ➡ (ア) 次のような知識を身に付けること。

・・・職業選択、・・・高齢社会における社会保障の充実・安定化、・・・**金融の働き**・・・

① さらに【解説・公民編】では、・・・**貯蓄**や**民間保険**などにも触れ、**自助、共助及び公助**が最も適切に組み合わせられるようにするにはどうすればよいか多角的・多面的に考察、構想し、表現できるようにすることが考えられる。

② さらにまた、【解説・公民編】 金融の働きについては、現代の経済社会における金融の意義や役割を理解できるようにするとともに、**金融市場の仕組みと金利の働き、銀行、証券会社、保険会社など各種金融機関の役割**、中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解できるようにする。

脚注※①を参照

(2) 「金融の働き」については、それを「主題」として、例えば、**仮想通貨**、様々な金融商品を活用した「**資産運用**」にともなう**リスク・リターン**、**株式・社債**発行による「**資金調達**」と「**企業会計**」などが考えられる。

脚注※②を参照

※①クレジットカードや電子マネー、キャッシュレス社会、また仮想通貨や各種金融商品の**リスク・リターン**（様々な金融商品を活用した**資産運用**にともなう**リスクとリターン**） [そして「**パーソナル・ファイナンス**」の観点からも]。

※②「**企業会計**」については、**情報の非対称性**や**説明責任 (アカウンタビリティ)**なども取り上げたい。

(3) さらに「主題」についての具体的な問いとしては、「**起業**」のための資金調達はどうするかなど。

※中学校「社会科」の「解説」にはこのような指摘はないが、ただ実際の教科書ではパーソナル・ファイナンスに関わる内容を取り上げたものもある。

※「リスク」とは？・・・金融の世界では「リスク」は「リターンの振れ幅」のこと。資産運用におけるリスク、将来に対する不確実性、「金融商品の値動きの幅のこと」と説明されている。

※(重要事項) 「**保険**」と「**貯蓄**」の**違い**・・・特にそもそも「保険」とは何か、その理解と把握の上で、「社会保険」を学習させることが重要である（「保険」は、単純に「損・得」の観点では説明できない！！）。

◎主体的・対話的で深い学びの実現、アクティブ・ラーニングの視点からの授業実現を。

## [9] 高校・公民科「政治・経済」の「金融教育」のポイント

「現代日本における政治・経済の諸課題」において、社会保障について学ぶ際に、「民間保険」についても併せて学ぶこととなった。

(1) 学習指導要領 … (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 経済活動と市場、…金融の働きと仕組みについて…現実社会の諸事象を通して理解を深める。

【解説 公民編】p. 135…金融の働きと仕組みについては、…このような金融における資金の需給は、金融市場における金利の変化や、株式市場と債券市場の動向などによって調節されることを、銀行、証券会社、保険会社など、各種金融機関の役割や間接金融、直接金融の仕組みと併せて理解できるようにする。

(2) 学習指導要領・・・金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し表現すること・・・

【解説 公民編】p. 139・・・金融は個人の資産形成に係る活動だけでなく・・・投資計画のうちどれを選択すればよいかを協働して考察し、評価・・・また、経済活動を活性化させるための中央銀行の金融政策はどうあるべきかを、中央銀行の政策委員会の委員になったつもりで考察、構想するなどの模擬的な活動を。・・・

金融に関する技術変革については、**フィンテック**と呼ばれるIoT、ビッグデータ、人工知能といった技術を使った**革新的な金融サービス**を提供する動きや、**仮想通貨**など多様な支払・決済手段の普及など・・・理解できるようにすることが求められる。

企業経営に関する金融の役割、・・・企業統治や企業の社会的責任・・・、**株式**や**社債**の発行による資金調達証券市場など金融市場の動向と関連していることを、企業の**会計情報**などを活用し、模擬的な活動を通して理解できるようにすることとともに、企業を経営したり支えたりすることへの関心を高めることが・・・**起業**に際して、・・・資金を調達すればよいか、起業の企画案と資金調達を企業側と資金提供側に分かれて・・・企業経営と金融との関係を・・・理解できるようにすることも考えられる。

(3) 「学習指導要領」 ア 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化……

【解説 公民編】p. 142……さらに、社会保険の役割とともに、自助としての医療保険、生命保険、私的年金保険などの民間保険の役割なども調べ、広い視野から持続可能な社会保障の在り方について自分の考えを説明、論述できるようにすることも考えられる。

◎ [現代の日本経済の諸問題を‘探究する’ことにおいて、「社会保障」と「民間保険」をともに学ぶことが重要である]

➡確認事項

①自助(預貯金、生命保険、損害保険)、②共助(社会保険)、③公助(公的扶助)

➡探究(考察・質問)事項

①貯蓄と保険の違いは何?…特徴(メリット・デメリット)→「保険」は単に「損・得」では説明できない。また ②なぜ「税負担」の他に「社会保険」方式の徴収をするのかも考察させたい。

## [10] 『学校における金融教育の年齢層別目標 【改訂版】』（金融広報中央委員会）

『学習指導要領・解説』と同様に、金融教育の実践・展開におけるガイドブックとして極めて有用である。 ※以下は、特に該当部分として(用語抽出)

### (1) A 生活設計・家計管理に関する分野 (pp. 4—6)

- ①(中学生) 希少性、計画的な資金管理、継続して貯蓄・運用、金利計算(複利)、金融商品(株式や債券)、リスクとリターン、ローン、社会保障、事故や災害、病気などのリスクの軽減……………
- ②(高校生) 希少性、選択、トレード・オフ、機会費用、効率、公正などの概念、資産形成、複利、投資信託、金融商品、リスクとリターン、年金や社会保障制度、リスク管理、保険と貯蓄、社会保険と民間保険の補完関係を理解。

(2) B 金融や経済の仕組みに関する分野 (pp. 8-10)

- ① (中学生) 金融機関の種類と役割、**間接金融と直接金融**、**起業**、様々な支払方法(各カード、スマートフォンなど)、**希少性**、**社会保障や公共サービス**、経済社会の課題。
- ② (高校生) **キャッシュレス社会**、**間接金融と直接金融**、**起業と資金調達手段**、企業の成立、存在意義・社会的機能、商品市場・金融市場・**証券市場**、現代の経済社会の課題について多面的・多角的に情報を収集と整理。

(3) 消費生活・金融トラブル防止に関する分野……「省略」

(4) キャリア教育に関する分野……「省略」

## [11] その他

### (A) 学習内容に関して・・・

(1) 「パーソナル・ファイナンス」の視点から、「投資信託(証券取引)」等を考える。  
—家庭科も、そして「アクティブ・ラーニング」、「カリキュラム・マネジメント」の  
観点からも。—

(ア) ➡「ポートフォリオ」(金融商品の組み合わせ)について・・・

(イ) ➡「GPIF」・年金積立金管理運用独立行政法人の積立金運用について  
上記の(ア)・(イ)の内容や「政府の規模」に関する「課題追究」学習。

◎主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点から、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」も重視。

(2) 「相続」について、特に「法定相続分」と「遺留分減殺請求権」等についても  
(「争続」にならないために)！ →単純承認、限定承認、放棄なども。

(3) 「社会保障」、特に「社会保険」と「民間保険」についてなど。「保険」と「貯蓄」の  
理念の違い(損・得?)についても再確認・把握する。(既述)

## (B) 学習方法や生徒の活動に関して・・・

- (1) 「金融広報アドバイザー制度」の積極的な活用～「社会に開かれた教育課程」の観点からも。
- (2) 日本年金機構には「地域年金推進員」の制度、講師派遣事業～「社会に開かれた教育課程」の観点からも。
- (3) 生徒の「金融・経済」等の「研究サークル(グループ)」の結成と積極的な活動。  
また「課題追究学習」の実践・展開のためにも。  
→環境や「SDGs」、「社会保障(保険)」等の「課題追究学習」が考えられる！

——『海老名高校 消費・経済・環境 研究会(「海老高」ファイナンス・クラブ)』の活動——  
日銀や東証の見学会、横浜地裁・刑事裁判の傍聴、「エコプロ」へのブース出展を毎年実施。「エコプロ」のブース出展では、各企業の「CSR報告書」の感想(1年生約400名)を展示、またファイナンス・クラブのメンバーが毎回5種類の「エコ弁当」をNACSの指導・協力によりブースに展示した。また、日本FP協会のインストラクターによる「金融・経済」講座を放課後に開催(毎月1回程度)してきた。